



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

読みの過程で起きる<読み違い>の諸相：
音読記録による実態把握の試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口,政之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/127833

読みの過程で起きる〈読み違い〉の諸相

—— 音読記録による実態把握の試み ——

山 口 政 之*

本稿では、子供の音読学習を適切に支援するための基礎研究として、子供の読字活動における読み違いに着目し、その諸相を明らかにすることに取り組んだ。文字資料がほとんど無いと言われている音読学習の音声化を対象化するために、音読記録を作成し、読み違いに対して考察を加えた。

まず、音読時にあらわれる特徴的な読み違いを抽出し分類するために、Campbellと国立国語研究所を中心に読み違いの先行研究から読み違いの範疇名を検討した。その結果、8つの範疇（自己訂正、代用、省略、挿入、再読、範疇、停止、不自然な休止）を定め、それぞれに独自の記号を割り当てた。

次に、音読記録をどのように記述するかを検討してみた。読み違いはテキストとの比較において明確になるので、テキスト本文と読字データを対比して構成したり、読み違いの記号を記入するなどの工夫をした。また、表

記については読字による音声をありのままに記述するために、表音式仮名遣いを採用した。

最後に、調査から得られた実際の音読をもとに音読記録を作成した。音読記録には更に後の分析に必要な補助情報（行番号や読み手の名前など）を付け加え、それを「分析シート」と名付けて考察を加えた。

その結果、日本語においてもCampbellの先行研究で見られたような読み違いがあらわれることが確認でき、音読時の読み違いの諸相を抽出することができた。

Key words

読み違い, 音読記録, 表音式仮名遣い, Campbell, 国立国語研究所

*言語文化系教育講座